

定例調査

## 北陸のBSI 経営者の景気見通し

講演録

第23回 中部社研時事フォーラム

## 『文化財を活用した地域振興』in 北陸 ～「文化財保護」と「観光」を両立する「まちづくり」のとりくみ～

コンサルティング  
通信

第7回 M&A編③

## 人口減少時代の企業存続と地方におけるM&Aの可能性

企業紹介

## 有限会社 松井板硝子店

【竹細工】「舞」<sup>まい</sup>（花器）

竹での制作は難しいとされる立方体を、  
舞っているかのような優美な造形で包み  
込んでいる。



## 奥深い竹細工の可能性を探っていききたい

竹細工(石川県指定希少伝統的工芸品) × <sup>なりやま さとし</sup>成山 悟司 [石川県金沢市]

軽くて水に強いことから籠やザルなどの生活用品として使われている竹細工は、加賀藩のもとで華道や茶道の普及とともに美術工芸として振興に力を入れたことにより発展しました。竹ひごを自在に編み上げ、緻密で繊細な造形美を浮かび上がらせる作品は、近年では美術品としても世界的に注目されています。ICチップ等の電子部品の設計業務に従事している成山さんは、金沢の伝統工芸作品展で見かけた竹細工の精緻なつくりと複雑な幾何学模様魅了されました。縁あって金沢市希少伝統産業専門塾に入塾し、そこで出会った多くの師や仲間から学びながら、技術を磨き続けています。「取り組むほどに奥が深い。自分のスタイルはまだできていないが、普段使いとアートが調和した作品を目標に、竹細工の可能性を探りたい」と成山さんは熱く語ります。



●湯籠(上)と盛籠(下)

発注元の温泉旅館の雰囲気に合わせて、日本の原風景に溶け込むような意匠となっている。



●ランプシェード

頭に浮かんだイメージを3D CADで設計し、制作することもある。山中漆器の木地師に台座を依頼した逸品。



●ループタイとピアス

軽くて上品なアクセサリ。古い町並みを散策するときに身につけたい。



●「迦具夜」(花器)と「鉄線編盛籠」

静寂な美しさで空間を演出し、おもてなしの心を映す作品。



●「旋」(左)と「放」(右) (香合)

同じ香合でもモチーフのデザイン一つで印象が随分と変わる。

石川県金沢市  
nariyama.satoshi@gmail.com



<sup>なりやま さとし</sup>  
成山 悟司

略歴

1969年 福井市生まれ  
1992年 東海大学 工学部 通信工学科 卒業  
2014年～2020年 金沢市希少伝統産業専門塾(竹工芸コース)塾生  
現在 金沢市在住、金沢市工芸協会会員

グループ展

企画展「A New Polite of KOGEI」銀座の金沢(東京)  
招聘アーティスト作品展「秋色の光の下で」galleryはりいしゃ(福井)

受賞入選歴

2017年 金沢市工芸展 入選(以降6回)  
2025年 oterart金澤2025 準大賞 受賞



割くことで竹の特性である柔軟さが生きてくる。

Instagramは  
こちらから

